



いしかり縄文・満月の会 代表 佐藤 勝彦



「いしかり縄文・満月の会」は、平成24年11月に立ち上げました。石狩市には紅葉山遺跡をはじめ埋蔵文化財包蔵地数が約220カ所あり、身近に遺跡環境があります。

満月の会が誕生したきっかけは当時、伊達市噴火湾文化研究所・所長として各地で精力的に活動を行っていた大島直行氏との出会いでした。「満月の会」の名称は、「満月の日に皆が集まり、1万年におよぶ平和な時代を築いた縄文とは何か？」

縄文の精神世界について、談論風発、自由に語り合えれば」との思いを込めて命名しました。年間行事として遺跡見学、講演会、縄文土器作り、野焼き、年4回の会報発行等々を行っています。現在、会員は44名です。



## 縄文よもやま話

千歳市キウス周堤墓群の付近に位置するキウス4遺跡では、北海道横断自動車道の建設に伴う発掘調査が行われた時に、盛土遺構が確認され、大量の土器片などが出土しました。盛土中の焼土からは炭化種子が多量に検出されました。たとえば、ヒエ属、タデ属、キク科（おそらくヨモギ）、ヒシ属、マタタビ属ニワトコ属、ヤマブドウ、クリ属、コナラ属、クルミ属等です。

縄文人は、食料になる植物や香りの強い草なども用いて、盛土遺構で儀礼的な行為を行ったのでしょうか。

～小さな種から～



## 道外の縄文の構成資産から

縄文時代中期後半（4500～4000年前）の大規模な集落跡です。

集落は、配石遺構を伴う墓地を中心として構成されています。

墓地の南側には盛土遺構があり、大量の土器・石器などとともに焼かれたシカ・イノシシなどの獣骨、焼かれたクリ・トチノミなどの堅果類、さらには土偶、土製品、石製品などの祭祀的な遺物も出土し、焼土が多いことから火を使った祭祀が行われていたと考えられています。

竪穴住居跡や貯蔵穴などの居住施設は東西の住居域に密集しています。

縄文時代の竪穴住居の屋根は、従来かやぶき屋根だと考えられていましたが、1996年（平成8年）の調査では、土の堆積状況から土で覆われた屋根だったことが確認されました。

御所野遺跡は、縄文時代の集落構造や竪穴住居の構造を考える上で重要な遺跡です。



～御所野遺跡(岩手県)～



■ 問合せ 一戸町教育委員会 世界遺産登録推進室  
■ 電話 0195-32-2652

## 会員メッセージ

### 「キラキラ土器の道」

北の縄文道民会議 会員 佐藤博幸



厚真町軽舞から見える夕張岳

9月6日未明発生の「北海道胆振東部地震」被災地、厚真町に平成28年6月4日縄文旅「縄文遺跡の発掘体験と現場見学」に参加した際、発掘指導案内の厚真町学芸員様から「約6000年前からの内陸交通の道筋」として、富良野盆地周辺に産出する「十勝溶結凝灰岩」起源の「高温型石英結晶」（キラキラ反射する水晶と同じ成分の砂粒）をたくさん含む縄文土器が厚真町の発掘調査で見え、キラキラ土器の道としての北海道先史時代の内陸物流ルートとわが町厚真町の未来への物流ルートの展望について教示していただきました。特に「先人たちの歴史、知恵の積み重ねを私たちが再認識して私たちがの活用を考え、後輩たちにより良い魅力ある厚真町を繋ぎ伝えなければならない」と厚真町に対する強い熱意を思い出し、厚真町教育委員会学芸員様並びに厚真町の早期再起復興を祈るばかりであります。

私たちも厚真町に負けないよう、今与えられた命題であります「世界遺産登録候補決定」に向け、更に一層持てる力を結集しようではありませんか。

### 「キラキラ土器」ってどんな土器？

※「キラキラ土器」（富良野盆地系土器）

平成14年度より始まった厚幌ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査で、苫小牧・千歳周辺では見られない、表面がキラキラ輝く縄文土器が多数出土しました。この光るモノの正体は長軸1.5mm以上の石英結晶が反射することによるものでした。

大粒の石英結晶は、石狩・胆振東部・日高では土壌中に含まれることが無く、土器の粘土自体が、富良野盆地の土であることが化学分析でわかりました。

千歳・恵庭・札幌・江別市などの石狩川・千歳川流域でもほとんど発見されていないことから、この土器は、北海道の中央部に源流をもち、太平洋へ注ぎ込む「鷗川」を伝って厚真へ運ばれてきたものと思われます。

### キラキラ土器の・砂粒・を調べる！

～土器の中に富良野のキラキラ石英！～



キラキラ土器を  
砕きすりつぶす。  
もったいないけど・・・新しい発見に期待！



40倍の実体顕微鏡で  
観察！どんな岩石・  
鉱物が入っているかの  
なァ？



すりつぶした土器の  
砂を0.425・1・2・5  
mmの4段のフルイ  
にかけて砂粒の大き  
さを見る。



直径1mm以上の半透明の石英が  
いっぱい！写真中央上側の金色  
は塵埃です。

分析：斜里町教育委員会 合地信生氏

※「厚真町の発掘調査で見えてきた北海道先史時代の内陸ルートと厚真町の未来への展望」（厚真町）より引用